



令和6年度 第93回全国民生委員児童委員大会



11月19日(火)朝8時30分集合、飛行機を乗り継ぎ夕方やっと着きました南九州宮崎市。

全国大会初日となる20日(水)、3000人の熱気の中、天岩戸神楽保存会によるオープニング、表彰式と続き、KIGURUMI・BIZ(株)加納ひろみ氏の特別講義では、過去の経験から自分が幸せでなければ誰も幸せに出来ない、まずは自分が幸せでいようと努力するお話に共感しました。その後、次期開催地が北海道ということで紹介映像とともに道内参加者が幸せの黄色いハンカチを振り北海道を猛アピールし、会場を盛り上げました。

大会2日目となる21日(木)はシンポジウムに参加し、持続可能な民生委員児童委員制度・活動の取り組みについてのお話を聞き、無事大会が終了。充実した3日間でした。

(第9民児協 小林 直子)

函館市民児協会長・副会長研修会

2月17日(月)10時30分から函館市民会館小ホールにて、民児協運営等の中核を担う民児協会長および副会長の資質向上を図る目的で開催されました。

「ヤングケアラーに対する支援について」というテーマで、函館市子ども未来部子ども見守り相談課長の田中博文氏を講師に迎え、支援マニュアルを基に説明を頂きました。

その後、函館市保健福祉部地域福祉課長の金指真弓氏より、「一斉改選に向けての取り組みについて」の説明がありました。

選任マニュアルの改正点や、一斉改選スケジュール等の説明があり、委員の確保には町会等との協力が必要と感じました。

午後からは令和7年度の事業について各ブロック・福祉部会ごとに協議を行い、研修内容について計画を立てました。

令和7年度の活動がスタートするという実感があり、委員の皆さんと協力して頑張っていこうと思えました。

(広報委員 西村 亜由美)

令和7年度のブロック部会・福祉部会活動計画案

※講師の都合により日にち・会場が変更となる場合があります

ブロック部会研修計画

ブロック部会名	日 時	会 場	テ ー マ
第1ブロック(1～6方面)	6月24日(火) 18:30～	市民会館小ホール	終活について より良き人生悔いなく 自分らしく
第2ブロック(7～11方面)			
第3ブロック(12～18方面)	6月23日(月) 13:30～	市民会館小ホール	詐欺被害の防止対策 特殊詐欺と最近の傾向
第4ブロック(18～21、30方面)	6月18日(水) 10:00～	亀田交流プラザ	避難所運営体験 Doはぐコース研修
第5ブロック(22～25方面)	9月予定 14:00～	未定	発達障害について 基礎知識から要対協まで
第6ブロック(26～29方面)	5月30日(金) 13:30～	恵山コミュニティ センター	民生委員活動について (グループ討議)

福祉部会研修計画

福祉部会名	日 時	会 場	テ ー マ
高齢者福祉部会	7月24日(木) 13:30～	市民会館小ホール	成年後見制度について
障がい者福祉部会	7月29日(火) 13:30～	市民会館小ホール	障がいのある方と地域 との共生(聴覚障がい)
生活福祉部会	6月30日(月) 13:30～	市民会館小ホール	自立した生活を送る ための方策
家庭児童福祉部会	10月予定 18:30～	市民会館小ホール	子どもの虐待 発達障害と保護者支援
主任児童委員連絡会	11月予定 18:30～	市民会館大会議室	未定

広報委員会発行計画

・発行回数 年2回

・発行日 前年同様4月・11月

カラーA4・8ページ

テーマ「虐待発見から虐待予防へ」 地域全体でともに育てる

令和6年10月22日(火)18時30分より、函館市民会館小ホールにおいて、函館中央病院小児科科長・子ども子育て支援室室長石倉亜矢子先生を講師に迎え、家庭児童福祉部会研修会が参加者103名で開催されました。

今回は、アメリカの国立児童の権利擁護センター2011年発表、ACE（小児期の逆境的体験）スタディの結果から、虐待における小児期の逆境的体験を極力減らしたい・トラウマ体験の影響を緩和したい。社会生活能力を身につけられる安全で安心な居場所づくり、子どもたちにPACES（保護的小児期体験）を提供し、ACEによる影響の予防をめざし、地域の関係性の中で、「子どもの居場所」を補完する研修でした。

地域として民生児童委員として、「困った、助けて」と言って

もらえるように、また、子育てでつまずくかもしれない人の伴走者になってほしいとのことでした。参加者にとって今後の活動にかせる研修となりました。

（家庭児童福祉部会長
中村 ひでの）



テーマ「認知症について」 認知症の症状から日常生活・家族への支援について

身近なものであり、令和7年には「高齢者の約5人に1人」が認知症に、との推計（厚生労働省）がされています。

認知症の種類や症状、疑わしい場合の対応や相談先、また認知症にならないための予防方法、認知症の方との接し方についても紹介がありました。

函館市も認知症に係る相談や介護支援策、日常生活自立支援事業（福祉サービスや金銭管理）等、多岐にわたって展開しております。

講演後に質疑応答を行いました。有意義な研修会となりました。
（高齢者福祉部会長 三田 信宙）



令和6年10月24日(木)13時30分より、函館市民会館小ホールにて高齢者福祉部会研修会を、参加者115名で開催しました。

函館市保健福祉部高齢福祉課家族介護支援・認知症担当主査、萬矢福子氏を講師に迎え、参加者全員に「知ってあんしん認知症ガイドブック」（函館市発行、無償）を配付し、映像と合わせて認知症について幅広く講演をいただきました。認知症は誰にでも起こりう



令和
6年度

民生委員活動促進研修 弘前市・青森市

9月19日(木)～20日(金)弘前市と青森市での『令和6年度函館市民生委員活動促進研修』に参加してきました。

「函館からは事務局含め15名の会長、副会長が参加いたしました。

第1日目弘前市での研修では、弘前市民児協から会長、副会長、監事や各部長10名の役員の皆さんが出席しました。

弘前市の人口は16万弱で、弘前市民児協は市内26地区の協議会で組織され、定数397人、毎月10日に事務連絡や意見交換を行っています。

●地域住民を守るための要支援

今回の研修テーマの一つに「地域住民を守るための要支援者の個別避難計画」があります。

本人から申請のあった75歳以上の高齢者、身体障がい者、要介護度3～5の方々などを対象に、民

生委員が訪問して支援者名簿への登録を促す活動をしています。

現在、要支援の対象となる1万7千人のうち1359人が支援者名簿に登録されているそうです。

続いてテーブルごとのグループワーク「災害に備えた連携等に関する意見交換」を行いました。

2日目は10時より「青森市民児協」との合同研修を行いました。

青森市は人口が26万5千人で青森市民児協は市内42地区、定数658人のうち現在68人の欠員があります。

最初に、日本赤十字社青森県支部の担当者が防災セミナー「災害への備え」について、配付資料に沿ってレクチャーしました。

その後グループワークに移り、世帯調査についての意見交換では、65歳以上の高齢者と障がい者世帯の世帯票は、市から直接各委

員へ情報が提供されていて、世帯の変更があった場合等も随時世帯票が送られてくるそうです。

●退任年齢は本人次第

また、民生委員の退任年齢は78歳です。市内の荒川地区では80歳になる現会長が活動していて、市福祉課では本人の継続の意思があれば、年齢は問わないという話をしていました。

グループワークの後、12時から交流会では「日本のフランス語」とも言われる津軽弁と郷土色豊かな昼食を頂きながら、青森市民児協との研修会を無事終えることができました。

(広報副委員長 稲村 耕三)



民生委員児童委員 初任者交流研修



●第1・2ブロック交流研修

11月14日、函館市民会館大会議室において、第1から第11方面までの初任者、正副会長計46名が、6つのグループに分かれて開催されました。

各グループに正副会長が配置され進行役を務めました。自己紹介から始まり、疑問や悩み、楽しさや面白さ、感じた事などを気軽に発言され、和やかな雰囲気が進みました。各グループ共通していた点は、戸別訪問時の不安ときっかけ作りに苦慮していた事でした。安心ボトルやパンフレット等の配



付物が効果的な事や、生保世帯には踏み込みすぎない注意も必要とのアドバイスもありました。

●第3・6ブロック交流研修

10月28日、市民会館大会議室において第12から17方面、第26・27方面の初任者、正副会長計39名が6グループに分かれて開催されました。

各グループ活発な意見交換等があり、活動について、活動記録や各種証明の記入方法、世帯調査についての疑問点などが話し合われました。また包括支援センターとの関わりも話題に上がりました。



●第4・5ブロック交流研修

11月13日、市民会館大会議室において、初任者、正副会長計53名が、8グループに分かれ意見交換を行いました。

民生委員になって感じた事、こんな時にどうする？委員になって良かったこと等、委嘱されて間もない皆さんの、活動を通しての経験談や疑問点など話し合われました。仲間作りや意識付けに役立つ事。特に「訪問するきっかけ作り」に苦慮している様子がうかがえました。

全体を通して今回出された提案や意見等を今後何らかの形で検討課題にあげ、解決や提案の実現が図られるよう各民児協でも検討してみても如何でしょうか。

(広報委員長 中村 啓子)



お知らせ 函館市民児連への 助成金について



函館市民児連の令和6年度活動事業に対し、次の団体から助成金が交付されました。

- ※相馬報恩会 400,000円
- ※杉崎福祉財団 250,000円
- ※函館市社会福祉協議会 106,000円

交付頂いた助成金は、民生委員児童委員活動に役立てるため、全道の研修会参加や、函館市でのブロック部会・福祉部会研修、初任者交流会の開催、他都市との交流研修等に大切にに使わせていただきました。

この場を借りて感謝申し上げます。

(民児連事務局)

テーマ「民生委員としての心構えと活動のあり方について」

第2ブロック部会研修会が、9月26日(木)午後2時より函館市民会館小ホールにて、参加者63名で開催されました。講師には函館市保健福祉部地域福祉課工藤敦子主査をお迎えいたしました。

民生委員児童委員の役割は、地域の身近な相談相手・見守り役です。何をしたらよいか不安な場合は、民児協定例会を活用し、民児協会長・副会長や先輩委員に相談したり聞いたりとアドバイスをもらいましょう。一人で悩んだり判断したりせず、関係機関とも相談しながら対応しましょうとのお話がありました。

次に、活動する際の職務の心構えについて、地域住民に寄り添った支援を行うため、研修を積極的

に受講しましょう。また、個人の人権尊重・守秘義務等、民生委員法に沿った説明がありました。

さらに、Q & A形式で支援している高齢者と関係機関との情報共有や、情報提供時の守秘義務に関わる具体的な対処、してはいけない金銭貸借・金銭取り扱いへの対応等の知識を深めることができました。

講演を通して、地域の「よき隣人」として「人と人を繋げる」民生児童委員の役割と活動が理解できた有意義な研修となりました。



主任児童委員活動推進研修

10月17日(木)～18日(金)、主任児童委員の活動が活発な旭川市民生委員児童委員連絡協議会に、「函館から6名で訪問しました。」

旭川市内の小学5、6年生を対象とした『民生委員・児童委員』作文コンテストのお話を聞き、日常の家庭や地域との繋がりを子ども視点で表現された作文に、胸がいつぱいになりました。地域住民と関係機関、そこに携わる方々の励みとなり、街全体が人と人の繋がりを意識できる取り組みになっていると感じました。

赤ちゃんが誕生したお宅へ絵本を持って訪問する「うぶごえへの贈りもの」の説明では、訪問時の顔の表情からあいさつの交わり方、その場の状況に応じた話し方などを丁寧にお話いただき、産後のお母さんとのコミュニケーションの大切さを再確認することができま



した。

本研修を通じて、子育て家庭への支援活動を円滑に進めるため、まず第一に民生委員児童委員、主任児童委員の活動を地域住民に広く周知することが前提にあると強く感じました。地域の皆さんの生活に寄り添える主任児童委員を目指し、これからも見守り活動を続けて参りたいと思います。

(第5民児協主任児童委員

梶原 亜里沙)

一斉改選に伴う 後任者への引継ぎについて

事務局だより

一斉改選に伴う前任者から後任者への引継ぎおよび函館市への返納品は次のとおりです。

■前任者から後任者へ引き継ぐもの

- ① 令和7年度版 民生委員・児童委員活動記録
※活動記録は12月に新任委員用を配付予定
- ② 世帯調査票・児童票・世帯マップ
- ③ 生活保護情報・生活福祉資金貸付関係
- ④ 民生委員・児童委員、主任児童委員名簿（令和4年12月1日）
- ⑤ 令和4年度「民生委員児童委員活動のてびき」
※改選後、令和7年度版を全委員へ配付予定
- ⑥ 民生委員児童委員必携第69集
- ⑦ 証明事務の手引き
- ⑧ 証明願（無職証明）用紙
- ⑨ 防災ベスト・キャップ・非常持出袋

■退任者から函館市へ返納するもの

- ① 民生児童委員「身分証明書・ホルダー」
- ② 民生児童委員「バッジ」
- ③ 民生児童委員「門標」

■前任者から後任者へ引継ぎが不要なもの

- ① 携帯電話充電用ソーラーバッテリー
- ② 各種研修用図書

■新旧民生委員の引継ぎ

退任される民生委員の任期は令和7年11月30日までとなっております。各民児協で引継ぎ時期を定め、適宜進めてください。

発行所 函館市民生児童委員連合会
広報委員会

〒040-0063 函館市若松町33番6号
函館市総合福祉センター3階
TEL (0138)26-8306

発行責任者 会長 船橋優子

印刷 (有) 三和印刷
TEL (0138)45-0845

編集 後記

前回発行の第84号から表紙の「民児連はこだて」のタイトルバックがおしゃれな絵柄になりました。少しづつですが、読みやすく目を通してくださる方々に楽しんで頂ければとの思いで作成しました。

令和6年度は、落ち着いてきたとはいえコロナとインフルエンザのダブル流行でありました。その中でも会議や研修会が全て予定通りに開催されたことは感謝です。これからも皆様に楽しく読んで頂けるよう作成していきますので、よろしくお願います。

（広報委員 笹島 則男）

令和6年度 活動写真集



1月 厚生労働大臣表彰
第27民児協 蔦さん (右)
第1民児協 船橋さん (左)

令和6年度 道民児連活性化事業指定

7月 第5民児協
「みんなつながるフェスティバル」



11月 第4民児協
「みんなのふれあい広場」



10月 赤い羽根街頭募金



5月 パネル展



9月 秋田市民児協との交流



1月 民児連新年交礼会

